

科学をもっと知ろう！

かがくナビ

竜の口の海

今から約500万年前、竜の口の海が岩手県花巻から福島県いわき市付近まで広く分布し、大きな内湾になっていました。この時代に堆積した地層が竜の口層です。この竜の口層は、おもに細粒砂岩・シルト岩などよりなり、豊富な化石を含んでいます。(貝類の他、クジラ・イルカなどの哺乳類、サメ・エイなどの魚類、甲殻類その他の動物化石やケイ藻化石なども知られています。また、センダイゾウも採集されています。)

竜の口層から知られている貝類化石は、一般に大型で厚い殻を持つものが多く、個体数が多く種数が少ない特徴があります。これらのことから竜の口動物群は寒流の影響を受けた浅海にすんでいた動物群であると考えられます。

仙台市内では、泉区の焼河原や青葉区の郷六でこの時代の化石を採集することができます。

※ 写真は竜の口層を代表するタカハシホタテの化石です。南は福島県浪江町、北はサハリン北部・カムチャツカ半島からも知られています。

